

E N G L I S H

英 語



LEARNING

Actions speak louder than words

訳 行動は言葉よりも大声で語る

解説 多くの人が「私は英語を話せるようになりたい」と言うのを耳にします。それに対して、「ではそれをかなえるために具体的にどのような行動を起こしているのか」と聞きたくすることがあります。

もし、「～したい」と言っているだけであれば、それは「あこがれ」にすぎません。しかし、具体的にそれをかなえるための手だてや達成する時間の目安を設定し、一步を踏み出すことができたなら、それは「目標」と呼ぶことができると思います。

あこがれをたくさんもつ人は、好奇心があって人生が楽しくなるでしょう。さらに、あこがれを目標に変える行動力があれば、「～したい」ではなく、たくさんの「～できる」を得られるでしょう。



LEARNING

All things are difficult before they are easy

訳 楽にできるようになるまでは、なにごとともむずかしい

解説 なにか新しいことをはじめたときには、だれもがむずかしいと感じるものです。時間を重ねて慣れていくことによって、徐々に簡単になっていきます。なにごととも、最初から完璧にできる人間はいないのです。

子どもたちも、ものごとがうまく進まず、ストレスがたまってしまうことがあるでしょう。しかし、そこであきらめずに続けてもらいたいものです。いつか、かんたんだと思えるときが、必ずくるはずですよ。

英語の学習にしても同じ、慣れてしまえばただの言語です。地道な努力を重ねて、自分のものにしてほしいものです。

関連 ・習うより慣れろ



LEARNING

Busiest men find the most time

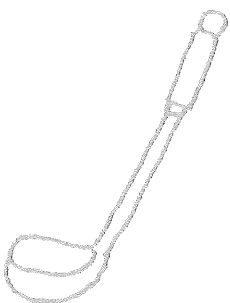
訳 いちばん忙しい人がいちばん暇を見つける

解説 「時間がありませんでした」「忙しかったのでできませんでした」というような言い訳を、ふだんくり返している人にとっては、耳に痛いことばかもしれません。忙しい人は、時間を上手に使わないと仕事を終わることができません。ですから、時間を効率的に使うためのノウハウを心得ていることが多いのです。そんな人だからこそ、日々をだらだらと過ごさずに、暇な時間を見つけることができるということです。

子どもたちの日常も、宿題をして、ゲームをして、漫画を読んで、テレビを見てと、やりたいことで埋め尽くされていることでしょう。だからこそ、時間の使い方が上手になってほしいものですね。

HOME ECONOMICS

家庭科



衣服



馬子にも衣装

意味 身なりしだいで、人は立派に見えるということ。

解説 「馬子」は、人や荷物を乗せた馬を引く馬方うまかたのことです。たいていは、粗末な身なりで、暴利をむさぼったり、あこぎなふるまいをしたりする者も少なくありませんでした。ですから、「馬子」という言葉には、単に身なりだけでなく、品行の悪さも含まれていたことでしょう。

そんな「馬子」が、いい衣装を身につけると、いつときは品行方正な立派な人に見える、というのが、このことわざです。

さて、実際のところはどうか。そんな付け焼き刃は、長続きするものではありません。日ごろから、衣装だけでなく、内面もみがいておかなくてはなりませんね。

衣類



借り着より洗いう

意味 人に頼ってぜいたくするより、自立した生活のほうがよいということ。

解説 友達どうして花火大会や夏祭りに行くとき、きれいな浴衣を着て出かけたというの、女の子共通の願いでしょう。友達が新調した浴衣を着ているなかで、お姉さんや親戚のお下がりの浴衣を着る子もいるかもしれません。そんな子どもに、紹介したいことわざです。

借りた晴れ着より、洗いざらした自分の着物のほうが着心地がよいということから、身の丈にあった自立した生活の大切さを教えています。

お下がりの浴衣は、最新のデザインや新品の鮮やかさはないかもしれませんが、着心地のよさや独特の味わいがあるものです。何代にもわたって受け継がれてきた愛情の記憶も、込められていることでしょう。

衣類



布に応じて衣を裁て

意味 収入や自分の状況に応じて生活するべきだということ。

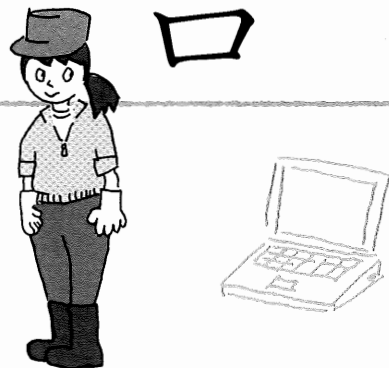
解説 英語のことわざ、Cut your coat according to your cloth を訳したものです。衣服をつくるときには、元となる布地の大きさを考慮する必要があります。小さい布からは大きな服をつくることはできません。ここの布は、自分の収入や暮らしの状況をたとえたものです。

布地の大きさだけでなく、布の種類も同じですね。肉体労働をするには、絹の服は不向きでしょう。木綿の服を着て仕事に精を出すほうが合理的です。見栄を張って美しい絹の服を着ていても、実際の役には立ちません。

分不相応な高望みはせずに、自分の身の丈に合った服装、生活に合った服装をすることが大切です。それは生活全般にいえることですね。

COMPREHENSIVE
LEARNING

総合



「創作ことわざ」の世界へようこそ！

「総合的な学習の時間」では、「創作ことわざ」という学習活動をご紹介します。伝承されてきたことわざの学習をさらに発展させ、子ども自身に主体的にことわざを創作させようという授業プランです。

創作ことわざは、戦後間もない時期、成城小学校教諭だった庄司和晃氏が始められました。その後、大東文化大学で教鞭をとられるようになってからは、大学生と創作ことわざに取り組まれました。庄司氏は、創作ことわざを「生活の中から論理を発見して、結晶させること」と定義しています。その教えを継承した植垣一彦氏も、庄司氏から学んだことを日ごろの教育活動に取り入れて、すぐれた実践を残しました。

平成12年度から始まった「総合的な学習の時間」は、学び手としての子どもの能力を引きだし、子どもの発想を大切に育てる、主体的・創造的な学習活動を展開することを重視しています。創作ことわざは、そのねらいにぴったりです。楽しく取り組めて、真理や道理を子どもひとりひとりの感性で発見できる活動だからです。

ここでは、小学校5年生を対象とした創作ことわざの授業を2つ、ご紹介しましょう。

1 「型はめ創作ことわざ」を楽しもう
(小学校5年生)

昔から伝えられてきた「伝承ことわざ」のうち、類似した表現に着目して「ことわざの型」を知り、「型」をふまえて自由なことわざをつくる、という学習です。

型の例

- ① ○より△ 「論より証拠」など
- ② ○は一生の△ 「学問は一生の宝」など
- ③ ○と△は□ 「学者と大木はにわかになんかできぬ」など
- ④ ○○に△△ 「鬼に金棒」(本実践で使用した型)

| | 学 習 指 導 | 子どもの様子・反応 (子どもたちの創作例) |
|-----|--|--|
| 導 入 | <ul style="list-style-type: none"> ◆「鬼に金棒」ということわざを紹介し、学習のねらいをつかませる。 ◆「○○に△△」という構造を理解させて、「ただでさえ強いものが、さらになにかを得てますます強くなる」という意味をもつことわざをつくることを説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆だれもが知っていることわざを例にしたので、「知ってる！」という声があがった。積極的に取り組もうという気持ちが高まった。 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ◆食べ物の組み合わせで、気軽にことわざを考えさせる。 ◆優れたことわざの条件も子どもたちに考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「コーラにフライドチキン」 「お茶にわらび餅」 「めしに肉の残り汁」 「キャベツにバーベキューソース」 「サーモンにレモン」 ・聞いた人がイメージできる。 ・インパクトがある。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ◆食べ物の組み合わせを発展させる。 ・場所と食べ物 ・状況と食べ物 | <ul style="list-style-type: none"> 「風呂上がりにはコーヒー牛乳」 「お祭りにわたあめ」 「お祭りにたこやき」 |